

山根 悟 DC からのメッセージ

ウイルヒョーの細胞病理学（1858年）に始まった現在の医療・医学は多くの疾病や病気を解明してきました。「病気は、細胞の異常、器質・構造の変化」と考え、その解決法が薬物・手術などで、あくまでも対処療法の域を出ません。

私たちのところに来院される患者さんが持つ腰痛はその85%が原因不明といわれ、レントゲンやMRIの検査では異常が見つけれられても、その結果に基づく治療法では良い結果を出していません。

今まで私たちが習ってきた痛みの医学は、思い込みによる根拠が無いことが多くあります。（なんとなくそう思う、先輩医がそうっていた程度）痛みの生理学、MRIなどの検査機器の進歩、そして何よりもインターネット・情報網の発達によって多くの矛盾が明らかになってきました。病院に来る患者さんが持つ三大疾病（肩こり、腰痛、膝痛）はこれだけ医学が進歩したにもかかわらず減るばかりか上昇の一途です。

そこで我々の全体重の7%に当たるコラーゲンはその対象ではありません。コラーゲンからなる真皮、筋膜、滑膜、靭帯、骨膜などは、神経終末が密に分布し、多様な感覚に富み、脳に情報を伝えています。

コラーゲン・・・詳しく言えば、膠原繊維集合体こそが治療の対象になるべきです。

その部分にアプローチすることが痛みの解決策であり、これからの必要な医療と考えています。痛みの難民にならないように勉強そして治療法を手に入れ一緒に邁進しましょう。